

「川路居住憲章」について

【目的】

私たち川路に暮らす住民は、多くの先人たちが幾多の困難を乗り越えて守ってきたこの土地を大切に受け継ぎ、「豊かで活力ある安全安心な川路」をつくり、未来へ繋ぐために住民としての責務を果たすことを目的とします。

【前文】

私たち川路に暮らす住民は、お互いに支えあい、住みよく豊かな暮らしを築いていくことをめざしてまちづくりを進めています。

そのためには、今 川路に住んでいる人、これから住もうとしている人たちが常に安心して豊かに暮らしていくために、相互扶助の大切さを理解し、一人の漏れもない全員参加の地域づくりをしていかなければならないと考えました。

私たちは、こうした川路をつくるために「川路居住憲章」を制定します。

【憲章】

憲章 1 つながり、相互扶助の精神を大切にします。

憲章 2 「住民全体の財産」をみんなで守ります。

憲章 3 地域の担い手づくりを進めます。

【実践項目】 (3つの憲章を実現するために行うこと)

実践1 住民全員が「川路居住憲章」への理解を深めます。

- ・キックオフミーティング、各区懇談会などで、地域活動を知る場をつくる。

実践2 土地・建物の、譲渡や管理の「専門窓口」を開設します。

- ・専門窓口では、不在地主に適切な管理を呼びかける。
- ・不在地主に草刈りNPO、支障木伐採業者、空き家の掃除業者などを紹介。
- ・空き家調査と、空き家リスト更新。

実践3 「全員参加の地域づくり」に合意する方に土地・建物を譲渡していただけるよう、所有者への協力を依頼します。

- ・地域全体が安全安心な環境を保てるよう配慮して、譲渡して頂けるよう依頼。

実践4 新規移住者には、「地域の家族」となる近隣住民が責任をもって声をかけます。

- ・日常の挨拶や声かけ、地域行事などへお誘いする。

実践5 移住希望者には、移住決定前に、川路で暮らすルールを直接伝えます。

- ・移住希望者には、事前に地区の活動、生活ルール（ゴミ出し等）を説明。

実践6 不動産・建設事業者には、「川路居住憲章」の遵守を依頼します。

- ・不動産事業者に移住希望者と地区をつないでもらえるよう依頼をする。

実践7 集合住宅や借家の管理者は、地域と入居者をつなぐ責務を負います。

- ・入居者へ、地域行事のお知らせを配布し、お誘いする。
- ・管理者が、区費やまちづくり会費のとりまとめ。

実践8 事業者・店舗等の皆さまを、地域の一員として迎えます。

- ・事業所社員に対して、地区行事へのお誘い。
- ・企業協力金等を依頼。

実践9 個別の住民事情に配慮します。

- ・高齢や病気、不在がちなどの個別の事情に、配慮して対応する。

憲章1 つながり、相互扶助の精神 を大切にします。

私たちは、一人では生きていけません。例えば、大雨や地震による大災害が発生したとき、自分の力だけで、大切な家族や近隣住民を守ることができるでしょうか。もしもの災害が起きた時に、「川路に一人の犠牲者もいない」という態勢をつくりたいと願わずにはいられません。

そのために大切なことは、普段から隣近所の仲間を理解し、助け合える関係を築き上げる「相互扶助（＝助け合い）」の意識を育んでおくことです。

また、地域の景観や環境美化は、道路や公園などを皆で掃除する共同作業によって、支えられています。

更に地域行事等への参加により、交流が生まれ、つながりが深まり、日常生活が豊かなものになっています。

安全安心で、環境が整った住みやすい川路をつくるためにも、一人は皆のために、皆は一人のためという意識を育んでいくことを大切にします。

憲章2 「地域全体の財産」をみんなで守ります。

土地は個人の所有ではありますが、住みやすい川路をつくるための「地域全体の財産」です。

所有者を含め、川路で暮らす住民全員が、土地の在り様を心がけ、よい住環境をつくることは、質のよい空間、誇り得るふるさとづくりにもつながります。

住民全員が地域の責任者であり、土地の利用の際には、何十年後かに問題が生じることのないよう、川路全体を見渡す広い視野と、長期的な視点を持って、地域全体の財産を守ります。

憲章3 地域の担い手づくりを進めます。

地域では、生活環境の維持作業、伝統文化の継承の他、さまざまな活動が行われています。更なる少子高齢化に向かう中で、今いる人、これから暮らす人いずれもが、地域を支える担い手になって頂くことが必要です。

地域活動についての住民アンケートでは、「地域で暮らす責任」「住む場所を自分で守るのは当たり前」「住民の務め」と多くの方が回答したように、先代から受け継がれてきた「自分達の地域は自分達でつくり、守る」精神を、次世代に繋げていくことが求められています。

そのため、時代に合わせた地域活動の見直しと共に、若い世代が川路を学ぶ場、共助による自治の理解を深める機会を大切にしながら進めます。